

## 材木屋とエコ 環境 省エネ(第75回)

### 南紀白浜旅行(前編) 神経痛と温泉

(株)コバリン 奥澤 康文

【シルバーウィーク】 少し古い話で恐縮ですが、3年前の9月の事。当時、結婚30数年で初の夫婦旅行で南紀白浜へ。新幹線と特急を乗り継ぎ午後1時過ぎ、有名な白浜に到着。台風の心配があったが、幸い天気は晴朗で恵まれた。久し振りの遠出で少し躊躇したが、半年前から準備した為思い切って決行。白浜は、日本の三古泉(有馬：兵庫県、道後：愛媛県、白浜：和歌山県)(・・・異説有)と言われ、海の傍で自噴する温泉もあった。恵まれた湯量、洗練された料理やサービスの宿泊施設、円月島、千畳敷、三段壁等の景勝、新鮮な魚介類等も有。又、数多いテーマパーク等のレジャー施設。夏は、海水浴等、単に、温泉地という枠を超えた総合力にある。

【千畳敷】 9月19日(土)白浜駅から車で約20分。砂岩の海底が隆起した観光スポット。



『千畳敷』の海岸の松林。不思議な形状。長い間に、風雨で樹形が変形した松が多数有り。人間の人生でも色々あり、思わず立ち止まり考えさせられた。



きれいな海岸で「恋」(?)を語る若いカップル。何となく絵になる瞬間。絶えず打ち寄せる波の音を聞いていると、とても気持ちが安らぐ。



落書きが目立つのが非常に残念。興ざめ。柔らかい砂岩の為、柔らかく簡単に傷がつく。一握りの悪意で10万年の歳月を刻んだ石舞台が泣いている。



海底が隆起し、波の浸食で地層がくっきり。すごい。大自然の地殻変動は神秘的で感動的。物思いに耽る人間が蟻の様だ。静かな雲の流れもいい。

【朝の白浜と三段壁】 9月20日(日) 宿泊は地元の評判の良いホテルの為、著名人や東アジア系外人さんも多い。朝晩の食事の際に色々な外国語が飛び交っていた。外国からの観光客誘致が軌道に乗ってきたようだ。又、白浜は、美人歌手の坂本冬美さんの生まれ故郷とのこと。日常の仕事や都会の雑踏から離れると、自然に気持ちや和んでくる。岸壁に打ち寄せる波の音、白い砂浜、透き通った青空、清潔で静かな観光地を体験できたことは、本当に久しぶりであった。



早朝の海岸線。部屋の眼下からの眺望がとてもきれい。早起きして、暫く、眺めていたが飽きない。何年か後に又、もう一度行きたい場所です。



海を見ながら朝食。潮騒が聞こえるようで、気分がとても爽やか。普段はトースト1枚の粗食の為、戸惑い。当然、昼食は抜きました。



三段壁（さんだんぺき）の絶景。ああ、吸い込まれそう。晴天の為、海の色が一段と深くきれい。何百万年の歳月が奇想天外の自然美を造形する。



エレベータで、約30m下降し、海面すれすれ。太平洋の怒涛だけでなく、うねりの飛沫が霧状になっている。絶好の見学スポットに感動。

【小高い山の上】 9月20日(日)午後2時頃。三段壁からバスで、「南方熊楠記念館」へ。



「締め殺しの木」。夜だと怖い気がする。不思議な感じ。木の強い生命力を感じる。



小高い山頂から、白浜の全景を見渡せる絶好スポット。強風が吹いていたが気持ちがすっきり。

【年末の雑感】 平成も31年4月で終わり、新元号となることが決定。相撲界の暴行事件も波紋が大きく収束が見えない。又、地元の富岡八幡宮での殺傷事件も凄惨なもので影響は大と思う。一方、世間では、経済も為替も比較的安定し、株式相場も20数年振りの水準に回復している。

年末、雑誌「日本の未来年表」(榎出版社)を買った。10年後、現在の約47%の仕事が消滅するという。最近、ネット内やマスコミで話題になっている内容だが、短期的にはそうならないとは思いますが、20年、30年後は確実に変わってゆくことは誰しも想像できる。経済、人口、政治、科学、農業、不動産、医療等の分野からの分析と予測が具体的に描写され非常に興味深い。

毎日同じ業務を繰り返しをしていると中々気付かないが、世の中は変動している。その本の中で、益川敏英氏(ノーベル物理学賞受賞)が、未来を語っていた。

#### ◆日本の未来を良くするための7ヶ条◆

- 1) 現状に満足せず、常に挑戦的な気持ちを持つ。
- 2) 科学者に対し、十分な研究環境を支援する。
- 3) 科学の発見は、本筋から外れた脇道からも生まれる。
- 4) 人間の知的好奇心は、AIに勝る。
- 5) 科学技術がどう使われるのか、監視する。
- 6) 純粋な若い芽が育つ環境を作る。
- 7) “夢とロマン”を真摯に追い求めるべし。

2017年12月17日(日)記